



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

## 2011年7月号

### 「主題」

- 国際会長 : 「とにかくやろうー成せばなる」  
 アジア地域会長 : 「とにかくやろうー成せばなる」  
 西日本区理事 : 「ワイズの原点、愛と奉仕で社会に貢献」  
 中部部長 : 「先ず一步 楽しもう、学ぼう、働こう、そしてつなげよう」  
 プラザクラブ会長 : 「ワイズなワイズになろう」

【Kick-off EMC-C=メンバー一人ひとりの小さな一歩は、クラブの大きな一歩となるでしょう。新しい自分の為、未来のクラブの為、まず一歩踏み出しましょう！！】

### 7月例会および今後の予定案内

#### 【7月第1例会】

日時：7月14日（木）・

場所：名古屋YMCA会議室

内容：新年度方針・前年度会計報告・新年度会計予算等

#### 【7月第2例会】

日時：7月28日（木）

場所：名古屋YMCA会議室

内容：次月例会打ち合わせ

出席義務者：役員（大島・櫛田・後藤）

8月担当者（櫛田・後藤）

9月担当者（後藤・島崎）

#### 【今後の予定】

##### 1. 日和田キャンプ場開設準備

日時：7月23日（土）－24日（日）

場所：日和田キャンプ場

会費：1,500円/人

##### 2. パレットキッズと釣り会

日時：8月13日（土）

場所：かじか苑

##### 3. アジア大会

日時：8月4日（木）－8日（月）

場所：台北

##### 4. 第15回中部部会

日時：8月28日（日）

場所：名鉄ニューグランドホテル

会費：10,000円/人

##### 5. ジャズコンサート

日時：9月10日（土）

場所：想念寺

### 6月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者				
		1	2	①②③④⑤		
会長	大島 孝三郎	○	○	○	○	○
	小澤 幸男	○				○
書記	櫛田 守隆	○	○	○	○	
会計	後藤 猛	○	○			○
直前会長	島崎 正剛	○	○	○	○	
	鈴木 誉三	○	○	○	○	
副会長	高田 廣	○	○	○	○	
連絡主事	万福寺 昭美	○	○			
ゲスト	大野 博昭	○				
	木全 耕二	○				
	山本 茂樹	○				
	常盤 真理子	○				
	東田 美保	○				
	長谷川 和宏	○				
	八木 武志	○				
課外活動	①西日本区大会 6/11-12					
	②中部新旧役員引継ぎ式 6/19					
	③ミニミニ・コンサート 6/25					
	④老人ホーム音楽慰問 6/26					
出席率・%					100.0	
1. ニコボックス		4000	57510			
2. オークション		0	16400			
当月合計/累計		4000	73910			
8月号ブリテンの寄稿者は後藤さんです。 400字詰原稿用紙4-5枚を目安にお願いします。 Eメール <a href="mailto:moritaka_kushida@ybb.ne.jp">moritaka_kushida@ybb.ne.jp</a>						

EMC(Extension Membership & Conservation)=新クラブ設立、会員増強と意識高揚

## 会長としてのお願い

大島 孝三郎

ワイズなワイズになろう (wise な Y 's)

～卓話例会に力を入れよう～

今年度は例年の養護老人施設への音楽慰問と軽度発達障がい児の野外活動支援の二つの活動を継続することの他に、卓話例会を増やす年としたい。講師はメンバー自身でも良く、他のクラブのワイズか外部の講師に依頼することも良い。また、他クラブとの合同例会を企画することでもよい。自分の担当の月の2か月以前から案を練り始め、直前月には確定しているものとする。ワイズライフの魅力として、友と交わり、さらに交流の輪を拡げていければ大きな喜びとなります。その時にはプラザクラブの紹介用リーフレットを準備して講師に依頼するとともに友人にも声をかけ参加を誘おう。他クラブからの合同例会の御提案、プラザクラブへのビジターとしてのお声掛けも大歓迎です。この1年ご協力よろしくお願ひします。

## 6月第2例会報告

日時：6月2日(木)・18:45-19:45

場所：名古屋 YMCA 会議室

### 1. 今後の予定・島崎

(1) 第1例会(POM)の会議時間は、午後4時半より30分間、議題は次期会長提案の「年間行事計画」とする。本年度の会計報告および次年度予算案は7月第1例会に審議する。

### (2) 今後の例会開催準備と進行

例会のレジュメは会長が作成する。会議に諮る議案があれば例会3日前までに会長に連絡する。また例会の進行役は、当月の担当者同士で決める。

### 2. YMCA 連絡事項・万福寺

(1) 6月5日街頭募金・(略)

(2) ミニミニ・コンサート(6月25日)の案内・(略)



(POM、次期中部部長と書記の八木さんが訪問されました)



(POM、わがクラブでは久しぶりの大人数の懇親会でした)



(西日本区大会、渋谷部長大いに語る)



(西日本区大会、ご機嫌な四人衆大いに飲む)

## 6月第1例会(POM)報告

日時：6月18日(土)～19日(日)

場所：かんぽの宿 知多美浜

今月はプラザクラブの創立記念月、ゲストにOBの大野さん、木全さん、山本さんの3人が誘い合って、山本さんのお友だち常盤さん、YMCAのスタッフ東田さん、次期中部部長の長谷川さん、書記の八木さんをお迎えして総勢15人の記念例会が、第1部会議、第2部懇親会の構成で開かれた。

第1部、開会点鐘、ワイズソングに続き6月6日に

亡くなられた長井潤さんに哀悼の意を表す黙祷を捧げ、ゲストの方々の紹介、長谷川次期中部部長の挨拶は主題を「先ず一步 楽しもう、学ぼう、働こう、そしてつなげよう」と宣言、名鉄ニューグランドホテルで開催される第15回中部部会へ参加の呼びかけとともに、次期の抱負を力強く語る。会議の内容は次の通り。

### 1. 次期年間計画案の方針説明・大島

#### (1) クラブ役員(案)

案通りで決定する。

(2) 年間行事計画(案)は、「賢いワイズメンになろう」と会員および会員の知り合いが講師となり、自分の仕事や趣味について講演し、お互いに知識を広げよう、という少々お節介な企画です。メンバーに与えられた「仮の演題」は変更自由とのこと、全員異議なく案通り可決した。

### 2. 諸連絡・大島

(1) アジア大会(詳細1面参照)

(2) 中部部会( )

(3) 第15回西日本区大会

日時:2012年6月9日(土)~10日(日)

場所:未定(滋賀県内)

### 3. 提案・榊田

日和田の清掃作業に使う、回転式モップバケツ2個を寄贈したい。予算は1万円、全員の承認を得る。長谷川さん、八木さんから4000円の寄付をいただきました。足しにいたします、ありがとうございました。第2部、懇親会は午後6時から始まる。第1部の自己紹介では、さまざまな理由で退会された後、「天国と地獄を行ったり来たり」、「わたしはこれから天国に」などと冗談を言い合っていたOBの3人は、相変わらず合気道三昧だったり、2年目を迎える新婚さんだったり、他クラブの卓話の講師を務めたりと、極めてお元気です。体力が戻ってきましたと嬉しそうに語る姿に、みんなが一様に「ほっ」とした表情と「よかったね」の空気が漂う。機会があればまた一緒に、などこの場所でお誘いするのは野暮というもの、元気を祝して乾杯、楽しい時間は早く過ぎる。長谷川さん、八木さんが「バンザイ」に送られて帰途につく。終わっても未練がましく残ったビールを空けていた連中も立ち上がった。男性の部屋割りには、たばこ組み、いびき組み、おだやか組、みな千鳥足でそれぞれの部屋に戻っていった。

### 西日本区大会の参加報告

6月11日-12日、ウェスティン都ホテル京都と京都市国際交流会館を会場として第14回西日本区大会が京都キャピタルクラブのホストにより、950名の参加



(中部役員引継ぎ式、新旧部長同士ガッチリ握手する)



(老人ホーム、鈴木先生のハモンドオルガンにハマる)



(ポコ・ア・ポコ合唱団、3歳の歌唱力は未知数です)



(最後は「燃えよドラゴンズ」の演奏に全員手拍子を取る)

者で盛大に開催された。ご来賓の京都知事(代理)、京都市長を始め島田日本YMCA同盟総主事、藤井国際会長、

松田東日本区理事から祝辞が述べられた。その中で、東日本大震災被災地に向けて支援活動を展開しているYMCAとワイズメンズクラブに対して、敬意や称賛が寄せられた。そのあと、仁科理事の挨拶と報告があり、今大会が東日本の復興のきっかけとなると自負を述べられた。つづいて、柳書記から代議員報告もスムーズに行われた。さらに、奈良傳賞の表彰、部長報告、事業主任報告も滞りなく進み、懇親会・フェロウシップアワーまでで初日の行事は終了した。今回の大会では、IBC/DBCの締結が進んだ交流事業と、2つのクラブの設立が実現したことのほか、メンバー数が1700超に戻る見通しとなったEMC事業とで目覚ましい成果があったことが特徴といえよう。メモリアルアワーでは15名の召天された名が報告された。その中に、大会直前に亡くなられた名古屋クラブの長井潤メンの名も告げられ、中部にとって大きな痛手であり、心からご冥福をお祈りします。理事引継ぎの後、浅岡徹夫新理事から「ワイズの原点、愛と奉仕で社会に貢献」の主題で力強い方針の発表があった。プラザクラブからは、島崎会長とわたくし大島が直前中部部長としての参加、ほか鈴木メン、高田メンの計4名が参加した。  
(大島 孝三郎)

## 中部役員引継ぎ式

6月19日午後5時より19人が集い、栄の榮太郎南店で中部新旧役員の引継ぎ式が行われた。式に先立ち部長から、西日本区大会において中部の広報事業に優秀賞(パンフレット優秀賞)とEMC事業に貢献したグランパスクラブの下村明子さんにガラス製の盾が授与された、との報告があった。渋谷中部部長は「1年間渋谷丸を支えてくださった役員のみなさん、ご苦労さまでした。深く感謝いたします」、新旧役員の紹介を終えて長谷川新部長は、「次期は長谷川丸、ともにがんばりましょう」と挨拶される。新旧の引継ぎは個々に行われた後、懇親会が夜8時ごろまで大いに盛り上がった。  
(楡田 守隆)

## ミニミニ・コンサートと懇親会

名古屋YMCAクリスマスキャロル参加者懇親会&ミニミニコンサートが開催された。2011年6月25日(土)、名古屋市中区錦3丁目の巖本真理メモリアルホールでクリスマスキャロル世話人代表の小尾雅彦さん(名古屋クラブ)のご尽力により実行された。これは毎年のクリスマスキャロル・イン・タワーズライツにサンタ姿で参加している聖歌隊のメンバーに声をかけ、YMCAをもっとよく知っていただくことと、短期間の

練習時以外に、お互いにもっと交流したいとの要望で開かれたもの。いつもの指揮者の橋爪圭子さん(東海クラブメネット・名古屋二期会)のソプラノ独唱と伴奏担当の安井正規さん(エレクトーン奏者・作編曲者)の演奏で、「夏の思い出」「浜辺の歌」など親しみのあるもの始め8曲を傾聴できた。今回の安井さんの独奏では、NHK大河ドラマのテーマ曲「江～姫たちの戦国」始め3曲のうち、オリジナル曲「森羅万象」も、壮大で迫力のある作品であり、力強い演奏には大きな感動を覚えるものがあった。安井さんは名古屋の生まれで、エレクトーンでは多岐にわたる活動を展開し、多くの実績がある。音楽大学受験時の師であった橋爪メネットの紹介の中に、将来はNHK大河ドラマのテーマ曲の作曲・演奏者として、テレビで名前が見られるようになるとの期待の言葉があった。早くそのことが実現してほしいとの願いをこの日の聴衆の多くが抱いたのではないだろうか。今回は50名程のミニミニコンサートであったが、内容は他の大きなものに負けないものであった。ロータリークラブやライオンズクラブと共にワイズメンズクラブにも協力していただける安井さんの今後のご活躍とご発展を強く願うものである。  
(大島 孝三郎)

## 老人ホーム音楽慰問

わがクラブは6月26日、西区の老人ホーム「アミーユ浄心」で音楽慰問を行った。

会場の食堂には40人ほどの入居の方がすでに着席、前座の小澤さんが弾くジャズを楽しんでいる。2時に開演、最初は3歳から16歳まで5人の少女合唱隊「ポコ・ア・ポコ」の「あめふり」、「かたつむり」と梅雨にちなんだ曲が続く。 Hammondオルガンは、試合の合間に中日球場で演奏していた鈴木先生。歌詞カードを職員の方にページを繰ってもらいながら、多分20歳前後に聞いたであろう、♪緑の丘の赤い屋根、♪赤いリンゴ口びるよせて、と歌う。鈴木先生の生徒さんで師範代格近藤さんの「東京キッド」は、なぜか映画館に架かっていた燕尾服姿の美空ひばりの看板を思い出す。

ここに入居されている方の平均年齢は87歳、女性が8割ほどやはり女子は元気で強い。わが身を彼らの中に置くと同化する、などと若い連中にかかわれるが、87までまだ余裕がある、というより到底無理だろう。

最後は、大震災の被災者からNHKにリクエストの多かった曲、「アンパンマンのマーチ」を子どもたちが力強く歌う。締めはいつも通り、全員で手拍子を取りながら「燃えよドラゴンズ」を披露、これで今年1回目の老人ホーム音楽慰問が終了した。

(楡田 守隆)

## ウサマ・ビン・ラディンの殺害について

5月1日にアルカイダの指導者ウサマ・ビン・ラディン容疑者が9・11のアメリカ同時多発テロ以来、10年の追跡の末、ついに米海軍の特殊部隊によって隠れ家で殺害された。妻3人と子どもたち、側近とで潜んでいたところを急襲され、妻の1人と娘の目の前で武器も手にしない状態で射殺されたとのことである。「テロで愛する人を失った家族に語る事が出来る。正義はなされた」とオバマ大統領は述べた。それに対して、ニューヨークの世界貿易センター跡地に集まった米国の市民は歓喜の声をあげた。国際社会の各国の反応は、テロの最高指導者を無きものにできたという点では同調する意見が多かったが、米国の作戦やその後の対応に批判的な意見も表明されていた。オバマ大統領も、これで安心だとは言っていない。今後もテロに対し警戒を怠れないと言っている。アルカイダを名乗る組織がイスラム系ウェブサイトでも米国やパキスタンに対して報復を警告している。ウサマ・ビン・ラディンは「殉教した」と指摘し彼の血を「無駄にしない」、「米国人とその手先には、自国内でも外でもわれわれの呪いが付きまとう」と主張した。改めてウサマ・ビン・ラディンやアルカイダのことを調べた。

ウサマの父はイエメンの名家の出身で、サウジアラビアに移り建設関係の財閥を形成した。一族の巨額の財産分与の一部が、イスラム教原理主義テロ組織の資金源になったとされている。父はビジネスで元アメリカ大統領ジョージ・H・W・ブッシュと同じ投資グループの大口投資家として、また役員として行動していた。ウサマは父の10番目の妻からサウジアラビアのリヤドで生まれた。父は22回結婚して55人の子どもをもうけた。ウサマは17番目の子である。ウサマは4度の結婚歴があり、子どもの数は20人程である。ウサマは大学に入ってムスリム(イスラム教徒)同胞団に入る。大学で教鞭をとっていたアブドゥッラー・アッザームの教えを受け、師と仰ぐようになった。

ウサマは社会主義・共産主義・民主主義・汎アラブ主義などは打倒されるべき対象であると述べている。「ムハンマド・オマル支配下のアフガニスタンだけが唯一のイスラム国家である」とも述べている。イスラエルの後見人というだけでなく、退廃的で墮落的な文化と規定して反米の立場にあった。ウサマは音楽にも不寛容であった。クルアーン(コーラン)の規定の遵守を監督するシャリーア警察に勤務もした。

1978年、ソビエト軍のアフガニスタン侵攻が起こるとサウジアラビアは、アフガニスタンのムスリムの支援をするために、王家に近かったラーディン一家に支援を要請した。ウサマはアブドゥッラー・アッザーム

の誘いにより、アフガニスタンでソビエト軍と戦うことを決意し、駐アフガニスタン・サウジ王国公式代表に任命され、個人財産を生かして、エジプトなどアラブ諸国からムジャヒディーン(義勇兵)をリクルートし軍事キャンプに送り込んだ。その後ウサマが中心となりアルカイダを創設した。ソビエト軍の敗退後サウジアラビアへ英雄として帰国した。ところが、サウド家が異教徒のアメリカの軍をメッカ、マディーナの聖地を有する国内に駐留させたことに反発し、急速に反サウド家・反米活動に転じた。アフガニスタン滞在中に「ムスリムにはアメリカと同盟国の国民を殺害する義務が有る」というファトワ(権威のある勧告・見解)を布告した。このころタンザニアとケニアの米国大使館爆破事件を起こしFBIの訴追を受けた。2000年には米艦コール襲撃事件を起こしている。2008年当時のCIA長官はウサマの追跡と逮捕はCIAの最優先事項とした。アメリカ以外でも世界各地でテロは数多く実行された。其の手段は自爆テロ・自動車爆弾で基本的には複数の爆弾を同時に爆発させ早朝に行うという特徴がある。

イスラム教の指導者はテロの度に「テロはイスラム教の教えに反する」との声明を出している。しかしテロの首謀者が背教徒であるとのファトワは出していない。また、首謀者の逮捕についての努力も見られない。アメリカ同時多発テロ事件の際には、狂喜乱舞するパレスチナ民衆の映像がマスコミを通じて全世界に流れた。一方、「イスラム原理主義過激派」の起こすテロが一般のムスリムをも巻き込んできたこと、またイスラム教が説く慈悲・寛容の精神から外れているとして、「過激派」は現地でも異端視されることが多い。このことは国際社会にとって救いである。

アルカイダは武力やテロに訴えない限り独裁政治からの脱却は難しいと説いてきたが、中東・北アフリカでは、民衆の抗議運動が政権を次々と倒した。「もはやアルカイダの影響の入り込む余地はない」との楽観論がある。しかし、「民主化の過渡期の混乱がテロを助長してしまう」とブラウン前英国首相は懸念を述べている。その他、過激派の間では中東の民主化のデモで強権政治のタガが外れた今を「好機」と見る心配もある。

根本的に、雇用の創出、教育の普及、武器の管理などの課題を早期に解決し社会の安定へと進んでほしいものである。(Wikipedia・日経新聞・中日新聞などを参照)  
(大島 孝三郎)

## 聖書の言葉

【ですから、あなたがたは偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい。私たちはからだの一部分

として互いにそれぞれのものだからです。怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。・悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵を与えなさい。(エペソ人への手紙 4. 25-26・29)】

【使徒パウロが、エフェソス(トルコ、小アジアのエーゲ海岸にあったギリシャの植民都市。前7-後6世紀に栄えたが、後にペルシャとローマに支配された。)のキリスト者共同体にあてて、日々の生活における心得を書いたものであるといわれている。】

【6月2日(木)・小学4年の孫から運動会の写真班を仰せつかったが、朝から雨が降っている。今日も新聞を読み、ゴロ寝しながらテレビを見る、退屈ないつもの生活が始まった。昼時、チャンネルを切り替えると民主党の代議士会の中継をやっている。菅首相は、「震災の復興に一定のメドがついた段階で若い人に責任を引き継いでもらおう」と演説し、鳩山前首相が「先ほど官邸で菅さんをお願いした」と約束を裏付け、「一致して行動しよう」と呼び掛けた。3時、孫の運動会は6日との連絡が入る。不信任案が気になり、本を置いてまたテレビをつける。菅首相は衆院本会議でも代議士会と同じ演説を繰り返す。結局、不信任案はあっさり反対で幕となった。かみさんが「一定のメドっていつ?」と聞く、「来年の1月ごろかなあ」、「どうして?」、「菅さんがせつて出させた東電の工程表通りに収束すれば、の話、ずれたらその先まで」、「ずーっと、ということ?」、「そう、だって日にちを言った?」、「・・・」案の定、夜のテレビニュースでは、「メドがつく段階」を曖昧にした菅首相に対して鳩山さんが怒り、二人で交わした「確認書」をかざしながら、「ウソつき」、「ペテン師」呼ばわりしている。スイスの有力ビジネススクールが発表した世界競争力年鑑の「政府の競争力」部門で日本は59カ国中50位だった、という記事をつい最近読んだ記憶がある。(「私家 気紛れ日記」より) 追記：、菅首相は、21日幹事長と合意した「新たな首相の下で」の文言を「新たな体制」と訂正させたようで、また「新たな火種」を蒔いたようだ。】

## Zoom・子連れサラリーマンの思い出

今年も例年通り連休明けの月曜、火曜日に会社の同期生6人とゴルフ会を行った。前日の飲み会は楽しいが、翌日のゴルフは苦行である。飲み会の話題は孫や病気の自慢に、昔の悪さを「今だから話す」、という他愛ないことである。「広島のとて、会社に連れて来たお子さんは?」と聞かれ、「36、かな?」と答えながら、あの時のほろ苦くて懐かしい思いが甦った。

昭和50年頃、子供をおんぶしたサラリーマンが満員電車にもまれる写真に「将来のあなたです」のコピーを添えた保険会社の中吊り広告を、電車に乗る度に見たことがある。昭和51年の夏、二女が生まれるため名古屋のお袋を呼んでいたが、出発2日前に階段を踏み外して足を骨折、急遽1歳半の長女を私設託児所に預けることにした。預けた初日の夕方迎えに行くと、若い女性が「一日中泣いていました」と言いながら、泣きじゃくる娘と汚れ物を入れたバッグを放るよう渡された。帰りの車の中でキャッキヤと嬉しそうに騒ぐ娘をいとおいと思った。翌日から子どもと一緒に通勤が始まった。

会社の女性陣が「面倒見るわ」と言ってくれるが、彼女たちにも仕事があり、「そうですか」とお願いするわけにもいかず、書類を会議室に持ち込んで床で遊ばせながらの仕事だった。ときにはお客さんからの電話に、娘を抱っこしてデスクに戻り受話器を取る始末、慌しかったが泣いたり駄々をこねたりして困ることはなかった。子どもなりに異常な情況だったことを気遣っていたのかもしれない。「子どもと一緒に伺います」と電話を入れて、お馴染みの得意先を回ったこともある。「電話でお話した通りです」と訪れ、子どもを膝に乗せて面談した。3日目だったか、大手ゼネコンの設計に呼び出された。「子連れの営業マンは初めてです」と珍しがられ、「お二人目? お幾つですか」と長女の歳を聞き、「お元気ですね、僕も4年間で3人出来ました」と自分の元氣ぶりも披露する、洒落の分かる課長に救われた気がした。あわただしく3日が過ぎ、「子連れ営業マン」の話が同期の悪童連に伝わったのか、「かみさんに逃げられた?」の電話が次々に入った。あの頃は、お互いにおおらかで少タイレギュラーなことでも許し合える良き時代だった。今は、「他人は他人」、「私は私」と他人にはあまり拘わりたくないという世知辛い世の中、「年休を取ればいいじゃないか」と反論されるのがオチである。

当時、どうして会社へ子どもを連れて行ったのか、勢いから? 託児所で泣き続けた淋しさ、悲しさを抱っこした温もりで知ったときの後悔の念と、その贖罪のつもりだった。「こんなに泣く子の面倒はいやよ」とも思える若い保母さんの不誠実な態度も重なって5日間の入所契約を打ち切り、残りの4日間を子どもと一緒に通勤することにした。会社を休む気はなかった。仕事が滞って仲間に迷惑がかかる、などと殊勝な心掛けではない。ただ、忙しい時期で休むほど自分の仕事が大変になる、という勝手な思い込みがあった。退院したかみさんから「子どもが迷惑」となじられた記憶がある。昭和53年1月、次の赴任地仙台で長男が誕生した。4年間で3人目である。